

自立活動だより

R7.7

長崎特別支援学校 自立活動部

日中の気温が35℃を越える日が増え、暑さが厳しい季節となりましたが、いかがお過ごしでしょうか。今年度も「自立活動だより」として、さまざまな情報を掲載したいと思います。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。今回は4月、5月に実施した校内研修についてご紹介します。

自立活動学習会『肢体不自由のある子どもへの援助～子どもも大人もけがをしない～』

(4月17日)

各グループで実際にお互いを抱え合ったり、人形を抱えたりするなどの体験をしました。子どもたちにとっても教師にとっても安全な移乗動作について学び合うことができました。



意識しておきたいワンポイント

『子どもと援助者の身体をしっかりと密着させる。手や腰の力だけで抱えるとけがをしやすい』

子どもの抱え方（基本）



首の後ろから背中
膝裏を支える

体を密着させる



※手だけで抱えると危険！（子どもも大人も）

床からの移乗について（一人ver.）

股関節や頸部に大きな問題がない場合…



・床に膝をつき、上体を起こす。
・首の後ろから背中に手をまわし
上体を支える。

・手を身体の前でクロスさ
せ、膝裏から手を伸ばして身
体に密着させる。



※手や腰の力で抱えよ
うとすると負担増！



・脚の力で抱え
上げる。



摂食指導研修会（5月9日）

口腔機能の発達とその発達に合った食形態について触れながら、安全を第一に、機能を高める援助について確認しました。実技演習は、3班に分かれて実施しました。1班は、食事時の適切な姿勢やその援助について、2班は、食材や温度ごとにとろみがつくまでの時間や硬さの違いを比較しながら適切なとろみの付け方について、3班は、食材の大きさ（粗みじん～1cm角）による咀嚼動作の違いについて、それぞれ体験を通して学ぶことができました。



意識しておきたいワンポイント

『子どもの摂食機能に合わせた食形態で食事を楽しく、安全に！』

1 摂食・嚥下機能について

捕食・嚥下機能獲得期の特徴

子どもの口腔機能

反射の消失

唇が開いている

舌の前後運動の獲得



適した食形態

ドロドロ食
(取り込んですぐに嚥下)



水分補給

舌が前後に動いたり、コップのふちを
咥んだりして時間がかかる

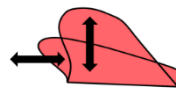
2 摂食・嚥下機能について

押しつぶし獲得期の特徴

子どもの口腔機能

舌の前後運動の確立

舌の上下運動の獲得



この時期にサラサラ・ポロポロ
ベラベラ・バサバサな食べ物は
誤嚥窒息を招く危険が...

適した食形態

舌と上あごで押しつ
ぶせる硬さの食べ物

ほどよい粘稠度
(とろみ)



水分補給

スプーンの嚥り飲みや
コップからちょうどよい量のとき
にゆっくり飲めるようになる

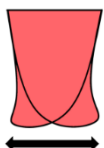
3 摂食・嚥下機能について

すりつぶし機能獲得・自食準備期の特徴

子どもの口腔機能

舌の前後・上下運動の確立

舌の左右運動の獲得



適した食形態

歯ぐきでつぶせる硬さ

適度な弾性のない食べ物
吸湿性の低い食べ物



水分補給

口をすぼめて飲めるようになる



4 摂食・嚥下機能について

手づかみ食べ・食具食べ機能獲得期の特徴

子どもの口腔機能

舌が自由自在に動く

頬で食べ物を支える

一口量の試行錯誤をし始める



適した食形態

歯ぐきでつぶせる硬さ
(多様な食感)

水分補給

連続飲みができるようになる



自立活動学習会『呼吸介助と排痰の援助』（5月20日）

医療的ケア看護職員の指導を受けながら、呼吸介助と排痰を促す援助（スクイーミング）の実技に取り組みました。ペアでの実技を通して、呼吸のリズムや胸郭の動きを手のひらで感じながら力の方向や加減を学びました。呼吸介助用の器具であるアンビューバックの体験も行いました。

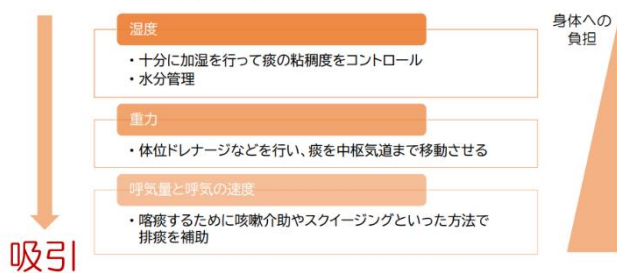


知っておきたいワンポイント

『子どもの呼吸に合わせた介助と体位ドレナージによってより少ない負担での排痰・吸引を！』

排痰の基本原則（排痰の3要素）

排痰の3原則からのアプローチ



<体位ドレナージ>

- 痰が溜まっている部位を上にしたり、高くしたりすることで重力を利用して痰の排出を促す方法。
- 口内、咽頭内に溜まっている唾液などの分泌物も排出できる。
- 耳を近づけて音を聞いたり、胸郭に触れて振動を感じ取ったりして、痰が溜まっているところを把握すること。
- リラックスして姿勢をとれるようにクッション等を用いる。



※右の肺に痰がある場合…



排痰方法（介助）

体位を整え、痰の位置を確認する

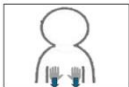
介助者が実施する場合（スクイーミング）



上部：第4肋骨より上部に手掌を当て、呼吸に合わせて胸郭を少し引き下げるように体全体を使って圧迫



中部・下部：第8肋骨と中腋窩線の交点より上部に下部胸郭を覆うように手掌を置く
呼吸時に腹部に向かって絞るように圧迫する



第10肋骨の上部に手掌を置き、両手を下方に引き下げるようにして圧迫

排痰方法（介助）

痰の位置が確認できたら…

介助者が実施する場合（スクイーミング）

呼吸に合わせて圧迫

- 圧迫の際は、肺の区画（肺葉）によって異なる胸郭の動きとタイミングに合わせて行うのがポイント
- 呼吸時、肺の上部肋骨は前後に、下部肋骨は内外側方へと動き、背側は前後・頭尾側方向に動くため、その動きに合わせて圧迫を加える

吸気で圧迫を解放

- 吸気に移行すると同時に圧迫を解放
- 吸気時には、胸郭の拡張を妨げないように注意する。うまく行えていれば、通常より深く吸気を行っていると感じることができる
- 実施中は児童生徒の様子をみながら、痛みや苦痛を感じていないか確認